

集会アピール

11月13-14日に開催予定の横浜 APEC 首脳会合に参加するために、オバマ米大統領が来日しました。日米首脳会談も予定されています。

1年前の11月、初来日したオバマ大統領は鳩山前首相と会談し、1年後の来日までに1996年の「日米安保共同宣言」を更新する形で、新「日米安保共同宣言」をまとめ、「日米同盟の深化」＝日米安保の拡大強化を宣言するとされてきました。

しかし、事態は日米両政府の思惑通りに進んだでしょうか。



ご存知のとおり、普天間問題をめぐるこの一年間の沖縄からの闘いは、日米安保を揺るがす闘いへと発展してきました。1月の名護市長選挙における稲嶺進さんの勝利、4月の県民大会・5月普天間包囲行動への大結集、9月名護市議会選挙結果は、「普天間基地即時閉鎖！辺野古新基地建設反対！」の沖縄の民意がゆるぎないものであることを示しています。そして、半世紀以上にわたり沖縄に過重な負担を押し付け、全国の基地周辺住民に深刻な基地被害を撒き散らしてきた日米安保体制の抱える矛盾が、なお一層明らかにされてきました。昨日、沖縄知事選が告示されました。伊波洋一候補は「沖縄が変われば日本が変わる。アメリカも変わる。」と述べています。伊波さんの闘いは私たち自身の闘いでもあります。



もちろん、日米両政府が、日米軍事同盟の強化拡大を断念したわけではありません。厚木基地、キャンプ座間、相模総合補給廠、そして池子、横須賀でも、基地機能が強化・恒久化されています。さらに、基地の共同使用、共同訓練など日米軍事一体化が進み、「中国の脅威」を口実に自衛隊の増員や「思いやり予算」の増額を求める動きまであります。

一方、松沢神奈川県知事は、日米安保改定50年を「祝賀」する記念式典を開催することを提案してきました。戦後半世紀以上にわたる基地被害の現実、基地機能の強化を見るとき、日米安保を「祝賀する」という発想が、どうして「沖縄に次ぐ第二の基地県」神奈川の知事から出てくるのか、理解できません。



武力では解決しない！アジアに平和を！

違法爆音をやめろ！静かな空を！

普天間基地即時閉鎖・辺野古新基地建設白紙撤回を！

沖縄をはじめとした全国各地の闘いと結び、日米軍事再編・基地機能強化に反対しよう！

オバマ来日一軍事同盟強化のための日米首脳会談反対しよう！

2010年11月12日

11.12 大和キャンドル行動・参加者一同